

平成25年9月6日

市川市私立幼稚園協会
会 長 緑谷一樹

市川市子ども・子育て会議

提 言 ①

1. 市川市の子育て環境構築について

ご提案いただいたニーズ調査案は待機児の実態調査であり、対象とする子育て世代に保育所等の預かり施設を増やすことを要望させる内容のように偏っていると考えます。

市川市においては待機児の解消は大きな課題で、すべての子育て世代が希望する施設を利用できることが大切であると考えます。しかしながら施設に預ければ子育てができるわけではなく、親子関係をどのように築き、我が子の子育てに対する親の自信をどう育てていくかが、真の子育て支援であり基本となる施策であると思います。親同士が仲間となり、つどい、様々な体験をして、学びあい・育ちあい、子育ての土台を築かなくては、幼児期以降の親子関係が希薄なものとなります。

エンゼルプラン（子どもウェルビーイング21）では長時間・長期間の施設利用のみに視点がおかれ市川全体の子育て環境の構築という観点が乏しかったと捉えております。

今回の子ども・子育て会議の議論では、長期間・長時間子どもを預かる施策だけが待機児解消・子育て支援になるとらえることなく、出産前後からの子育てについて議論して、ハード・ソフトを考えていくことを提言します。

そして市内私立幼稚園が取り組んできた預かり保育事業・2歳児等のプレ保育事業・園庭解放事業等も有効な子育て支援・待機児解消の施策であると認め、私立幼稚園も活用した子育て支援事業が展開されることを期待します。そのうえで新制度における認定こども園等の施設型保育事業では、市川市として特色のある運営等、利用しやすい・運営しやすい施設となるように、幼稚園・保育園・市民の意見を十分に反映した制度設計がなされることを要望します。